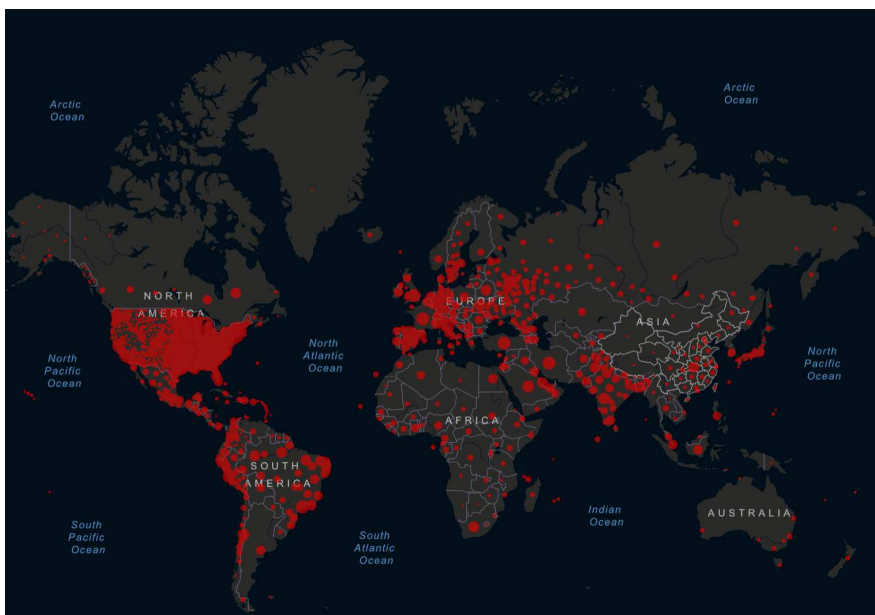


コロナニュース 8

二十二十年六月十五日

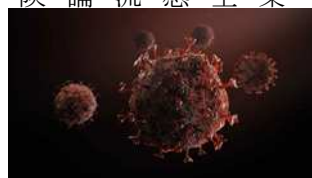


☆ 全国的に梅雨となり、うっとうしい日が続きます。これから暑い本格的な夏が来ます。地球温暖化による酷暑と大雨、豪雨さらに感染症で自然は人間に対し復讐を始めたのかもしれない。みなさまいかがお過ごしですか。熱中症も感染と同じくらい怖いことを思い出してください。

☆ 熱中症を防ぐポイント

- ☆ こまめな水分補給
- ☆ マスクを外して休憩(外せるときは外しましょう)
- ☆ 屋内外で適度な運動
- ☆ 換気をしつつエアコンの温度を調節
- ☆ 独居高齢者らに声掛け

☆ 全世界の感染の傾向・・・今回もジョンホプキンス大学のグラフを参照します。なぜカナダとアメリカがこんなに違うのか。アメリカが減らないのはなぜなのか、インドや南米に続いてアフリカがこれから感染爆発を起こすのか。為政者の能力だけでもなさそうですが、まだまだ分からない事はばかりです。



☆ COVID-19 について分かっていること
 ☆ この感染症はおもには飛沫感染で伝播します(話をするだけでも感染者からウイルスを含んだ飛沫が空間に流れ、空気がよどんでいれば感染をもたらす、密閉された空気の流れない部屋で大声をあげたり、議論したり、近くで会話をするのは危険な行為です)

☆ 当然ですが感染しても最初は無症状(潜伏期)です。このウイルスに特有なこととして無症状の潜伏期にも他人にうつす：とても強い感染性があります。

☆ 季節性インフルエンザに比べても感染力が強く、(再生産数は インフルエンザ1.3で、コロナ2.2)2倍くらい強い。感染力が強いため感染の爆発的な拡大が起こりました。

☆ どんな感染症も重篤化すると死に至りますが、季節性インフルエンザに比べて致死率が高く、インフルエンザは0.1%程度に比べ、コロナは1.2%と10倍以上と致死的な感染症です

☆ 高齢、高血圧、糖尿病、免疫不全、血管疾患の既往などが重篤化のリスクですが、そうでなくとも突然悪化することがあります。若年者やリスクの低そうな人でも重篤化して命を失う。

☆ 症状は多岐にわたり感冒症状だけではなく消化器症状、神経症状もあります(頭痛、嗅覚障害)。
 ☆ これから我々がすべきこと

☆ アジアにおいては比較的死亡率が低く抑えられています。その理由が不明です。その中でも武漢では医療崩壊と高い死亡率になりましたので、アジアや日本だから感染爆発が起こらないというのは全く根拠がありません。

☆ そして感染爆発が起これば容易に医療体制が崩壊し、悲惨な状況に陥ります。
 ☆ 大事なことは医療を崩壊させないことで、そのためには感染爆発を作らないことです。一方人間の経済活動を止めたままにしておけば餓死や自殺が増えます。経済の破綻はもうすでに限界にきています。感染を増やさないために、人の接触を減らすことは経済的な面からはこれ以上継続困難です。

☆ 医療体制の拡充が一番デメリットが少なく急ぐべきことだと思われれます。感染が下火であるいま、国や県・市、医療従事者は予測される次に備えて医療体制の拡充を図るべきです。

☆ 医療崩壊は患者の集中によって起こります。コロナウイルス患者の分散管理が必要です。
 ☆ 感染症指定病院においては十分な資材とスタッフの確保、スタッフ教育でECMOなど最重症の管理が自県内でできるようにしてほしい。

☆ 市中基幹病院においてはコロナ病床を確保し、重症感染症にも対応できるように、呼吸器、感染防御資材、スタッフを確保。自院内でPCR検査ができるようになってほしい。

☆ 一般病院においては、軽症者や無症状感染者の受け入れ可能な体制を作り、要請があった時には対応できるようにしてほしい。無症状陽性者は、自宅で管理してはいけない。家族内感染を容認すべきではない。ホテルで管理するのは一つの方便で、あくまでも保険として、原則は病院です。

☆ すべての医療施設、介護施設において、定期的なPCR検査、新規入院患者や入所者に対するPCR検査を行うべきではないでしょうか。サッカークラスターより、ホストさんたちより優先すべきです。大病院であれば自院で、中小病院・クリニックでは民間検査機関と連携して。

☆ 介護施設でのクラスターを防ぐためには、十分な感染防御資材とスタッフを確保すること・スタッフ教育も必要と思われれます。

☆ 経済的支援、人的支援を迅速、確実に行ってほしい。
 ☆ さて、当院、診療所にできることはなんでしょう

☆ 現状ではいろいろな制約がありコロナウイルスの積極的な診断ができません。そうであれば、鑑別疾患である他の肺炎や感染症をできる範囲で診断すること、コロナウイルス抗原検査が可能になったら安全に行うことと考えます。
 ☆ 安全のためには、診療所でも感染者疑いの方と非感染者の動線を分ける方策を十分とることが必要でしょう。

☆ マスクが市中のホームセンターに巡回し始めました。アルコール消毒もそれなりの値段で出回っています。以前よりは高価ですが必要に応じて購入されたらどうでしょうか。次亜塩素酸水や次亜塩素酸ナトリウム液は安価で消毒薬の代用として役に立ちましたが、当院では、待合室のカーペットに週末噴霧してありましたところ、カーペットの汚染が強くなりました。以後できる限り次亜塩素酸ナトリウムが残らないように心がけておりますが、次亜塩素酸ナトリウムは使い方を誤るとかなり危険な化合物ですので、皆さんも十分注意してください。

☆ オンライン診療を開始しています。電話再診の活用もお勧めしています。患者様側で必要な用意は、専用アプリをインストールしたスマホとクレジットカード・保険証と身分証明書(運転免許証など)です。受付でお尋ねください。

医院からのお願い

- ★ 電話再診・オンライン診療が利用できます。受付などでご相談ください
- ★ 体温を自宅で計って発熱があればあらかじめ連絡をください!
- ★ 医院の入り口で体温を測ります。発熱者は車内での待機をお願いすることがあります
- ★ 入り口で手指消毒・マスクをしてください

コロナニュース ⑧ 二十二十年六月十五日発行
 編集・文責 村松正俊

